

# 民間徴用の朝鮮出身者遺骨を返還

## 北海道・殿平住職ら日韓市民グループ

### 道内寺院に安置の115体

太平洋戦争中に北海道で過酷な労働を強いられ、亡くなった朝鮮半島出身者の遺骨を韓国へ返還しようと活動してきた、北海道5体の遺骨を届けた。

深川市・一乗寺の殿平善彦住職(70)ら日韓の市民グループが、戦後70年に合わせて9月20日、韓国ソウルに11軍人・軍属分の返還を進めたが、民間徴用者らの遺骨の多くはそのままになっている。

返還したのは、遺骨発掘に取り組んできた殿平住職が共同代表を務める「強制労働犠牲者追悼・遺骨奉還委員会」で、旧三菱美唄鉱山(石巻市)や朱鞠内雨籠ダム建設現場、旧浅茅野陸軍飛行場建設現場などの犠牲者と、札幌別院(札幌市中央区)や道内の寺院に安置されていた115体の遺骨。

同グループは韓国遺族7人と合流し約30人で、9月11日に一乗寺を出発。道内の各寺院で遺骨を受け取った後、札幌別院や東京・殿平住職らは1970年代から犠牲者の遺骨発掘に取り組み、これまで韓国への返還を行っている。

(80面に関連記事)

